

資源評価シート

魚種名：クロダイ

1. 生態的特徴

北海道～屋久島の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海、朝鮮半島全沿岸域、渤海、黄海、済州島、台湾、中国東シナ海・南シナ海沿岸、ベトナムに分布する。春から初夏に産卵し、孵化後約1か月で体長1cmの稚魚となり、内湾浅所の砕波帯やアマモ場に生息する。体長6cm程度になると、河川の汽水域や沿岸の岩礁域で生息し、10月下旬から11月下旬にかけて、体長12～13cmに成長した群れから湾口域に移動して越冬する。伊勢湾における標本船調査では、4月頃から湾内に来遊し、6月から10月にかけて広く湾内に分布するが、11月以降は次第に湾口付近に集まり、冬季は大部分が湾口から湾外へ移動したと報告されている。雄は満3年、雌は満4年で成熟する。クロダイの幼魚は全て雄で、体長15～25cmで両性に転ずる。

県内全域で漁獲されるが、伊勢市、鳥羽市で漁獲量が多い。主に、小型底びき網、刺網、釣、定置網などで漁獲される。

2. 資源評価の指標となったデータ

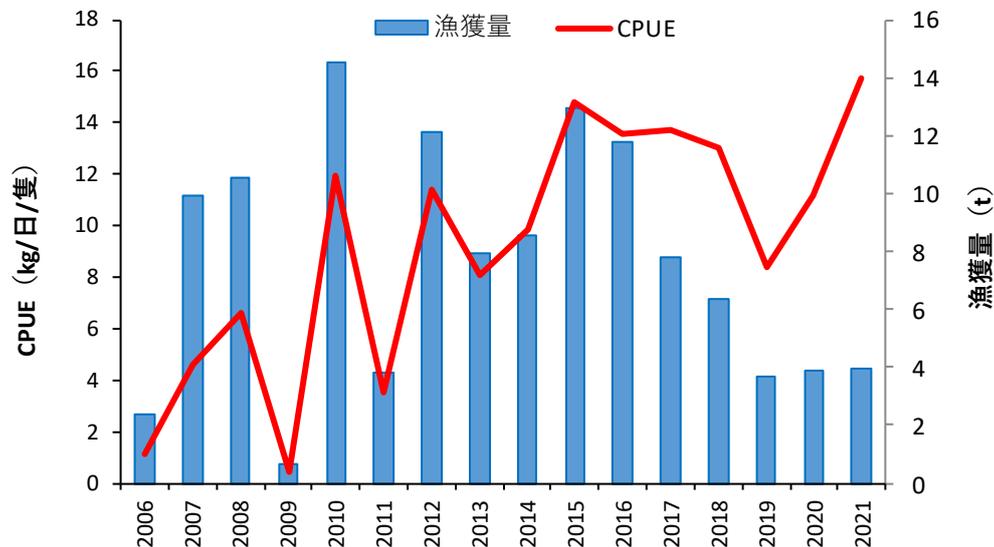
伊勢湾における小型底びき網の主要港である伊勢市有滝地区の漁獲量、出漁隻数からCPUEを算出し、2006年～2021年のCPUEから資源水準を、直近5年間のCPUEから資源動向を評価した。

3. 資源評価結果

資源水準：高位

資源動向：横這い

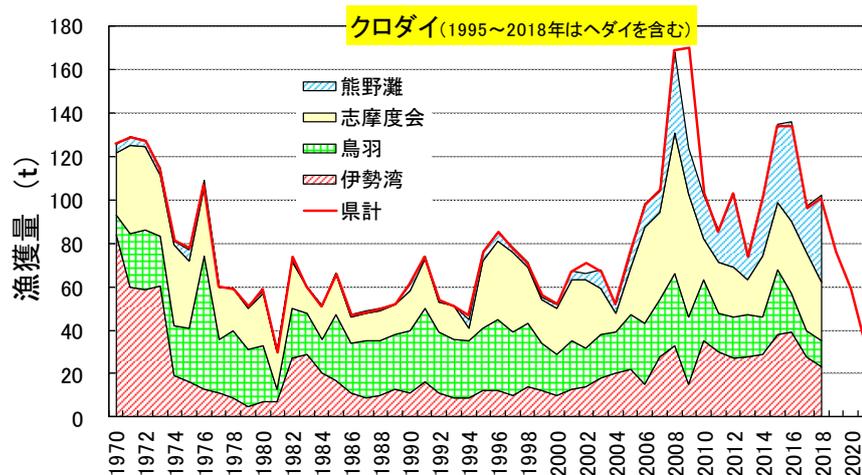
4. 資源評価の根拠



伊勢市有滝地区の小型底びき網（まめ板）漁業におけるCPUE（1出漁あたりの漁獲量）の推移

- ・過去15年間（2006～2020年）の伊勢市有滝地区における小型底びき網のCPUEの第一三分位点（11.9）と第二三分位点（8.1）を基準点とすると、2021年は15.7kg/日/隻で「高位」と判断した。
- ・過去5年間（2017～2021年）のCPUEの傾きから、資源動向は「横這い」と判断した。

5. その他関連情報



三重県の漁獲量は2005年頃から増加傾向で、2018年頃まで高い水準で推移した。伊勢湾では、2000年から2016年まで増加傾向が見られている。近年では、ノリ養殖における食害種として注目されている。